

根拠を明確にし、伝えたいことを表現する子どもを育てる国語科学習指導 ～思考ツールを活用した学習過程を通して～

要約

21世紀は知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されていくものであるが、近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきている。とりわけ第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。このように、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子どもたちには、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが求められる。

全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、「文における主題を捉えること」や「文における主語を捉えること」「文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること」「目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること」などに課題があることが明らかになっている。中学校では、「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること」「複数の資料から適切な情報を得てそれらと比較したり、関連付けたりすること」「文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること」などに課題があることが明らかになっている。以上のことから、根拠を明確にし、文章表現する力をつけることが必要だと考え研究主題を設定した。

そこで、中学校国語科「書くこと」の学習指導において、思考ツールを活用した学習過程を設定し、活動に応じた支援を行えば、根拠を明確にし、伝えたいことを表現する子どもが育つであろうと考えた。検証の方法として、授業の中で、読み取ったことや学習したことをもとに、自分の考えを書く活動の場を設定し、情景表出シートやスターチャートなどの思考ツールを使って、自分の考えを文章で表現することとした。

2回の検証授業を通して、子どもたちの「書くこと」に対する意欲が高まった。今まで書きたいことはあっても、それを整理することができず、文章で表現することが苦手な生徒が多かったが、思考ツールを活用したことによって、自分の考えを整理できるようになり、意欲向上につながったと考える。

本研究を通して、次の成果と課題が明らかになった。

- 思考ツールを活用することで、自分の考えが整理されたり可視化されたりし、文章で表現することに対する苦手意識が低くなった。
- 文章化するとき、構成の仕方を示すことで、何をどのように書いたら良いのか分かるようになった。
- 自分の考えを文章化するとき、思考ツールに表出した考えをどのように選択し、構成させるか更なる手だてを考える必要がある。

キーワード 根拠を明確にする 思考ツール

1 主題設定の理由

(1) 社会的要請・現代教育の動向から

21世紀は知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されていくものであるが、近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきている。とりわけ第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。このように、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子どもたちには、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが求められる。

全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、「文における主題を捉えること」や「文における主語を捉えること」「文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること」「目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすること」などに課題があることが明らかになっている。中学校では、「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること」「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり、関連付けたりすること」「文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること」などに課題があることが明らかになっている。以上のことから、根拠を明確にし、文章表現する力をつけることが必要だと考え研究主題を設定した。

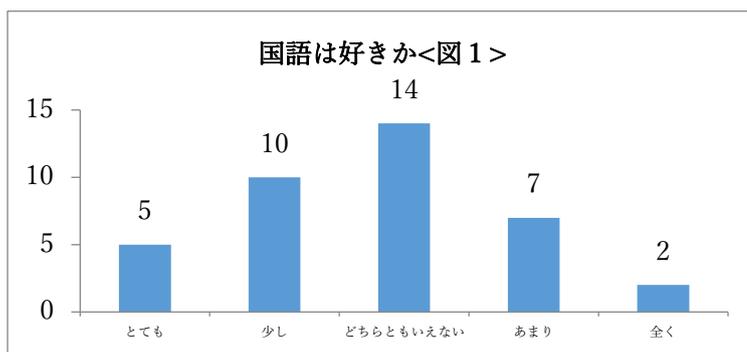
(2) 国語科の目標から

今回改訂される学習指導要領には、具体的な目標として具体的に「(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と示されている。これは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めること、言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力が求められているということである。このようなことから、根拠を明確にし、表現する力を育成することをねらいとした本研究は、国語科教育を達成する上でも意義深いと考える。

(3) 指導上の反省・問題点・生徒の実態から

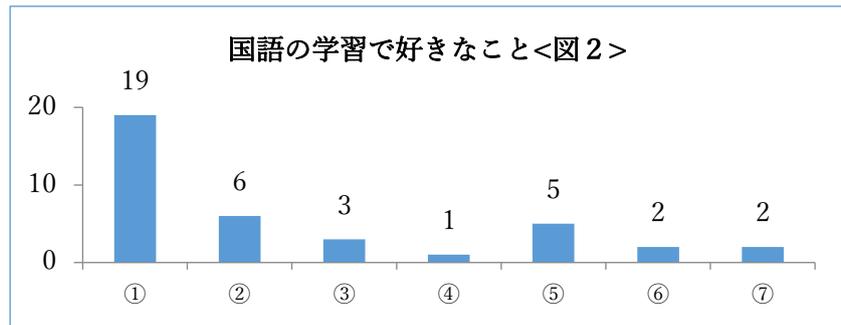
本学級の生徒は「国語は好きか」という質問に対して、「とても」「少し」「どちらともいえない」「あまり」「全く」の5段階の評定尺度を用いて回答を求めた。そして、結果は<図1>の通りとなった。

このことから、国語に対して



比較的関心が高いことが分かる。【図1 アンケート結果(1)】

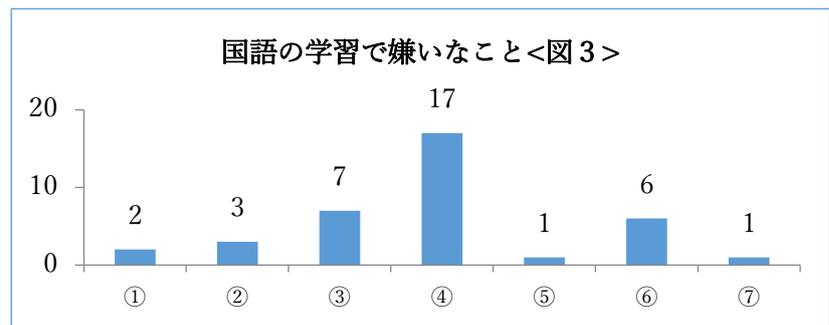
さらに、「国語の学習で好きなことは何か」という具体的な内容に関することから回答を得た。



選択肢は①物語や説明文などの文章を読むこと②スピーチや話し合い活動③詩や短歌などの創作④自分の考えを文章で書くこと⑤漢字の成り立ち⑥文法⑦硬筆・毛筆の7つである。①の「読むこと」に関する項目が圧倒的に高い数値を示しているのに対して、③④の「書くこと」に関する数値が低いことが分かる。①を選択した理由としては、「自分の考えが広がるから」「自分の知識が増えるから」というようなことがあげられた。このことから、自分にとって得られるものがあると考えていることが分かる。また、③④を選択した理由としては「話すのは苦手だけど、書いて相手に伝えることは好きだから」「考えるのが楽しいから」などの理由があげられた。

また、「国語の学習で嫌いなことは何か」というアンケートもとった。結果は<図3>

のとおりである。このことから、③④の「書くこと」に関する項目に6割以上の生徒が集中しており、「書くこと」に対して苦手意識が強いことが分かる。③、④を選択した理由は「何を書いたらいいのかわからない」



「伝えたいことをまとめることができない」「うまく書けない」ということがあげられた。これらは、構成の仕方や、書き出しなどの記述の仕方がわからないことが原因だと考える。また、過去の自分の授業を振り返ってみると、物語や説明文を読み、登場人物の思いや筆者の考えを読みとることなど「読むこと」に偏りがちになっていたということも考えられる。そこで、「書くこと」に重点をおき、記述や構成の仕方が分かり、自分の伝えたいことが明確になれば、苦手意識が解消されるのではないかと考えた。

2 主題の意味

(1) 主題「根拠を明確にし、伝えたいことを表現する子ども」とは

①「根拠を明確にし」とは、主張が明確で、ふさわしい根拠を選択して、事柄のつながりを考えながら文章を構成することができ、説得力があるということである。

②「伝えたいことを表現する子ども」とは主張を明確に伝えるために、ふさわしい根拠を選択し、文章を書くことで表現することができる子どものことである。そして、文章で表現するために、文章の組み立て方や記述の仕方を考えて説得力のある文章を書くことのできる子どもを意味する。具体的には、「主張の明確化」、「構成」、「記述」という過程を踏む。そのためには、以下のような資質、能力が必要となる。

- 主張を伝える説得力のある文章を書くことに関心をもち、収集する材料の内や、構成や記述の仕方を検討して、文章を書こうとする意欲や態度（関心・意欲・態度）
- 主張を明確にして、ふさわしい事柄を選び相互関係を意識して構成したり、相手を意識した効果的な言葉や表現等の記述の仕方を考えたりしながら文章を書く力
(書く力)
- 表現する内容にふさわしい語句や文の使い方についての知識や、文章構成の方法や記述の仕方についての理解
(言語についての知識・理解)

(2) 副主題「思考ツールを活用した学習過程を通して」とは

「思考ツール」とは頭の中で考えていることや、考える順序を図形にして表したものである。「思考ツール」には二つの特性があると考えられる。

一つ目は、「情報の可視化」である。伝えたいことがあっても、頭の中だけでは整理し難い。それを、図形に表すことで、自分が伝えたいことを整理し、確認することができる。

二つ目は、「情報の操作化」である。頭の中にある情報を学習プリントや、話し合い活動の場面ではホワイトボード上などで、自由自在に動かしたり、書き直したりして情報を操作することができる。自分の考えが目に見えるだけでなく、動かしたり、修正したりしやすい状況が生まれることで、子どもが活動しやすい状況が生まれる。

3 研究の目標

中学校国語科「書くこと」の学習指導において根拠を明確にし、伝えたいこと表現する子どもを育てるため、思考ツールを活用した学習過程の在り方、及びその有効性を明らかにする。

4 研究の仮説

中学校国語科「書くこと」の学習指導において、思考ツールを活用した学習過程を設定し、活動に応じた支援を行えば、根拠を明確にし、伝えたいことを表現する子どもが育つであろう。

5 仮説検証の内容と方法

(1) 検証の対象

小郡市立三国中学校 第2学年1組（38名）

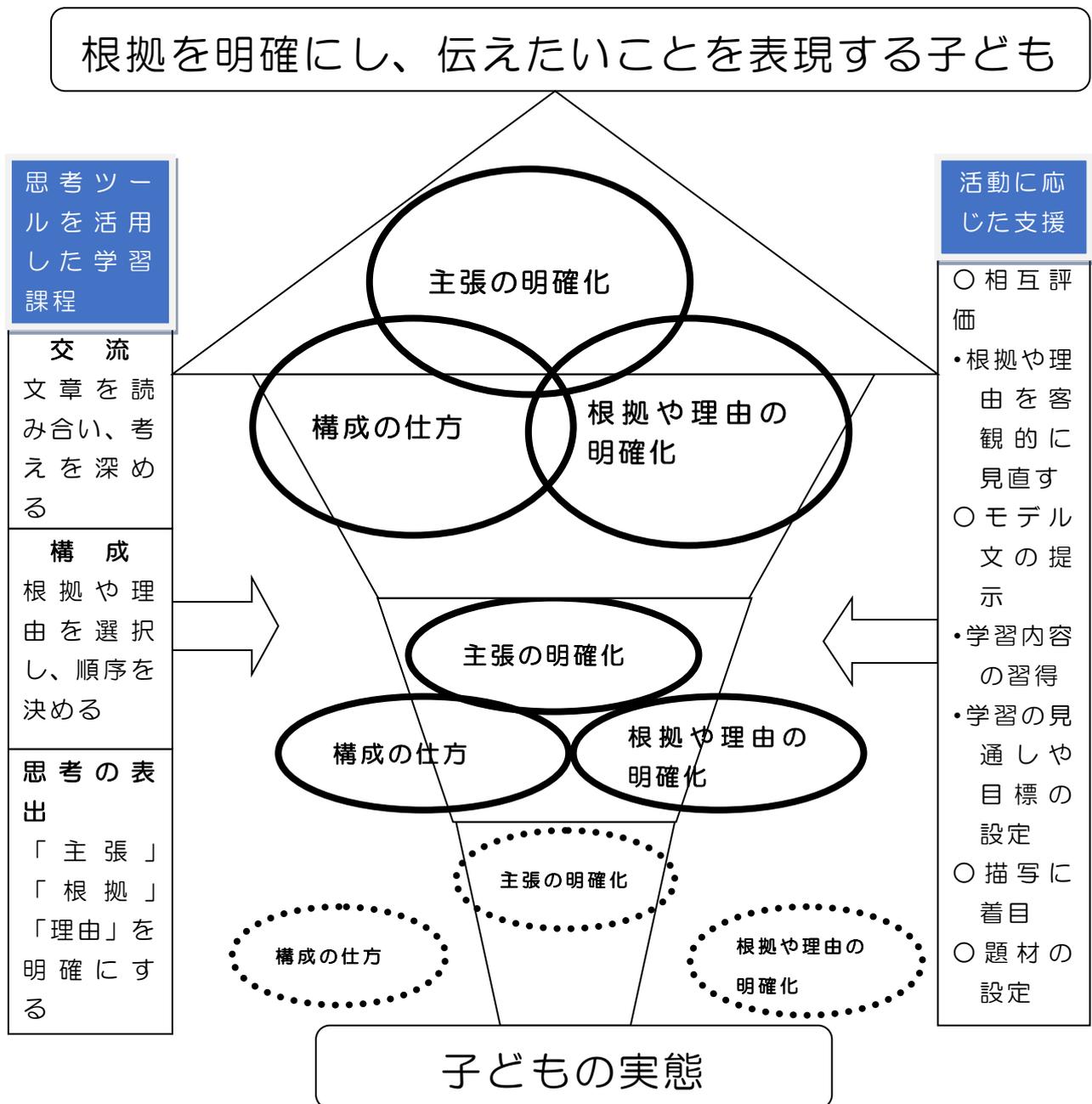
(2) 検証の内容と方法

授業の中で、読み取ったことや学習したことをもとに、自分の考えを書く活動の場を設定する。その際、情景表出シートやスターチャートなどの思考ツールを使って、自分の考えを文章で表現する。

6 研究の計画

| 月 | 研究計画 | 月 | 研究計画 |
|----|---------------|-----|--------------|
| 5月 | 研究主題の吟味・設定 | 10月 | 教材研究 |
| 6月 | 研究主題の吟味・設定 | 11月 | 検証授業① |
| 7月 | 生徒の実態調査・研究の構想 | 12月 | 検証授業② |
| 8月 | 研究の構想・仮説の設定 | 1月 | 研究のまとめ・報告書作成 |
| 9月 | 教材研究 | 2月 | 研究報告 |

7 研究の構想図



8 研究の実際

実践事例1 単元「ことばを磨く」 教材「短歌の世界」「短歌十首」（7/9時間）

① 本時の主眼

他者の短歌を推敲し、なぜこのように推敲したほうがよいのか、根拠を明確にして、自分の考えを伝えることができる。

② 展開

| 段階 | 活動の実際 | 子どもの姿 |
|-----|--|--|
| つかむ | <p>1 前時までの学習内容を想起し、めあてをつかむ。</p> <p>○ 作者が表現したいことを捉えるときに活用した情景表出シート（思考ツール）【写真①】や、よい短歌とはどのようなものかまとめたノート【写真②】などを活用し前時までの学習内容を確認した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【写真①】 【写真②】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>めあて</p> <p>短歌を推敲し、なぜそのように推敲したのか説明できるようになる。</p> </div> <p>2 推敲する短歌の提示</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">夏の夜 暗くなった お空には 大きな花火が 打ち上げられる</p> </div> <div style="margin: 10px 0;">  <p>子ども</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>誰が作った短歌かなあ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <p>字足らず・字余りになってるところがあるぞ。</p> </div> </div> <p>3 短歌を推敲し、なぜそのように推敲したのか自分の考えを文章で表現する。</p> <p>○ どの句を推敲した良いか分からない子</p> | <p>○ 前時までのワークシートやノートを振り返り、推敲するときの視点（表現を工夫すること、情景が思い浮かぶ短歌にすること）の確認をすることができた。</p> <p>○ 字足らず・字余りに気付き、短歌の特徴である三十一音で創作した方がよいと考える子どもがいた。</p> |

どもはヒントカードを活用して考えた。

【ヒントカードの内容】

- ・字足らず・字余りの句があります。
- ・花火ということばを使わずに花火を表現してみましょう。



子ども

二句が字足らずだ。
四句が字余りだ。

比喻を使ってみよう。

深
め
る

- 情景表出シート（思考ツール）に作者の思いを当てはめてどんなことばを補えばいいか考えた。

作者の思いにも注目して、情景表出シートを活用して推敲しましょう。



教師

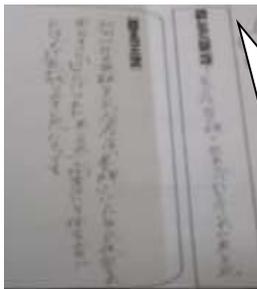


子ども

友達と見ているはずなのに、友達と見ていることが伝わってこないぞ。

きれいな花火に感動したことがもっと伝わるようにしたいな。

- 推敲した短歌と、どのように推敲したのか文章で自分の考えを表現した。



【写真④】

〈推敲したあとの短歌（完成）〉

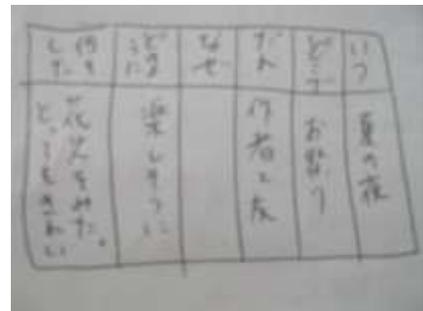
夏の夜 星の輝く 空見上げ 打ち上げられた 美しき花

〈推敲する句やその理由〉

初句以外を推敲しました。なぜなら、「星の輝く」にした方がきれいな夜空を表現することができるし、四句と結句を入れ替えて、倒置法を使うことで感動がより伝わると思ったからです。

- ヒントカードがあったことで、字足らず・字余りの句に気付くことができたり、表現技法を使ったりして、どの句を推敲したらよいか、焦点を絞ることができた。

- 情景表出シート（思考ツール）【写真③】を活用したことで、足りないことばに気付くことができた。



【写真③】

- 根拠を明確にしなが、自分の考えを表現することができた。

ま
と
め
る

- 4 自分の考えを交流し、班でさらに推敲する。



- 推敲することで、よりよい短歌に近づくことが確認できた。

③ 実践1の考察

- 前時までに習得したことを振り返りながら、めあてをつかませたことで、推敲をするときにどんなことに注目すればいいのか、視点を絞ることができた。
- ヒントカードを活用したことで、どの句に注目したら良いのか分からなかった子どもも、注目すべき句を見つけることができ推敲することができた。
- 作者の思いに注目しながら、情景表出シートを用いることで思考が整理され、推敲することと、自分の考えを文章化するという点で有効だった。
- 文章化するとき、何段落に何を書くなど、条件をもう少し細かくした方が、文章表現をしやすかった。

実践事例2 単元「読みを深め合う」教材「走れメロス」(7/7時間)

① 本時の主眼

物語をとおして作者が伝えたかったことは何かという課題に対し、スターチャートを用いながら、根拠を明確にして、主題についての自分の意見を述べるができる。

② 展開

| 段階 | 活動の実際 | 子どもの姿 |
|--|---|--|
| つかむ さぐる | <p>1 前時までの学習内容を確認し、めあてをつかむ。</p> <div data-bbox="242 1137 821 1310" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 物語を通して作者が伝えたかったことは何か考えよう。</p> </div> <p>2 スターチャートを用いて、根拠を明確にしなが、主題について考える。</p> <p><主題について考える視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メロスの人物像から ・メロスの言葉から ・メロスの行動から ・ディオニスのことから ・セイヌンティウスとメロスに関することから <div data-bbox="242 1736 343 1870" style="display: inline-block; vertical-align: middle;">  </div> <div data-bbox="343 1736 821 1870" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>メロスの言葉に人物像が表れているところがあるなあ。</p> </div> <div data-bbox="343 1892 821 1993" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>メロスは最後まであきらめずに走っている。</p> </div> | <p>○ 前時までの学習で使ったワークシートを振り返り、登場人物の人物像、心情の変化を確認することができた。</p> <p>○ 教科書や前時までに使ったワークシート【写真⑤】【写真⑥】を活用し、スターチャート【写真⑦】に書き込みながら主題について考えることができた。</p> <div data-bbox="861 1556 1396 1937" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <p style="text-align: right;">【写真⑤】</p> |

物語の中で人物像が変化
した人はいなかったか
な。



教師



子ども

ディオニスは、最初人を
信じていなかったのに、
メロスの行動やメロス
とセリヌンティウスの
姿から、人を信じよう
とする人になっている。

人を信用していないディオニスが、
お互いを信じ合っているメロスとセ
リヌンティウスの仲間に入れてくれ
と言っている。

3 班で交流し、自己の意見を再考する。

深
め
る

スターチャートを見せな
がら、交流しましょう。
取り入れたい意見は、色
ペンを使って書き込みま
しょう。



教師

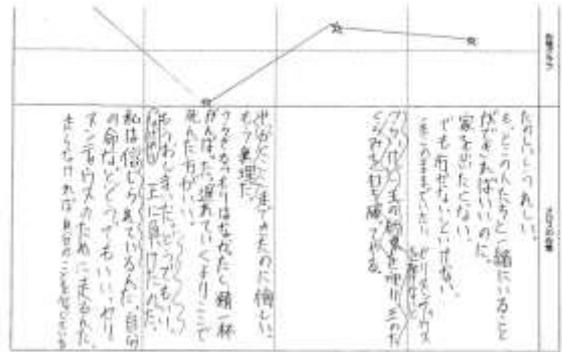
4 主題について自分の考えを作文する。

／
ま
と
め
る

最初に結論を述べる頭括
型で書きましょう。



教師



【写真⑥】

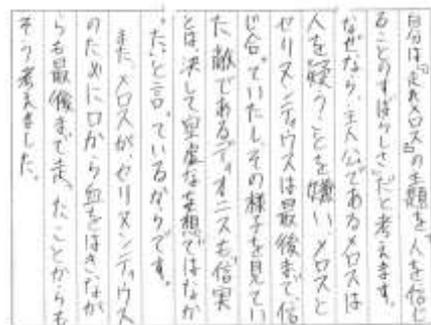


【写真⑦】

○ 班の人の考えを聞いて、新たな発見
があり、自分の考えを練り直すことが
できた。



○ スターチャートを見ながら、根拠を
挙げて自分の考えを文章で表現するこ
うができた。



【写真⑧】

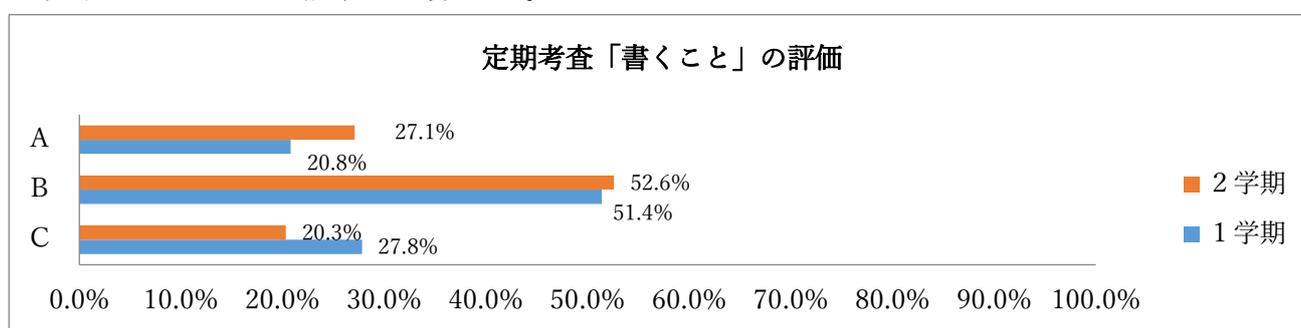
③ 実践Ⅱの考察

- スターチャートを活用したことで、根拠を明確にしながら自分の考えを文章で表現することができた。
- 自分の考えを文章化させるときに、頭括型を示したことでどんなふうを書いたら良いか迷う子どもがいなかった。
- 文章化させるときに、書くことが苦手などもへの支援として、頭括型を示すだけでなく、さらに、条件を具体的に示す必要があった。

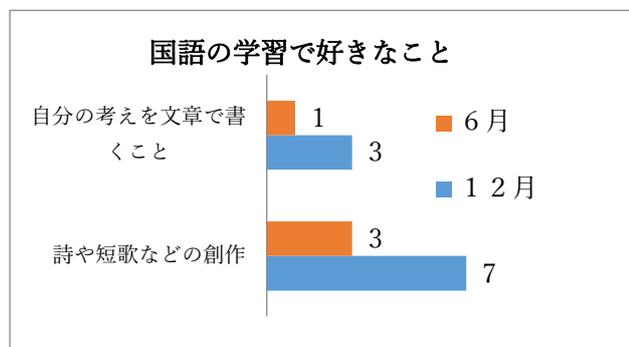
9 研究の成果と課題

(1) 全体考察

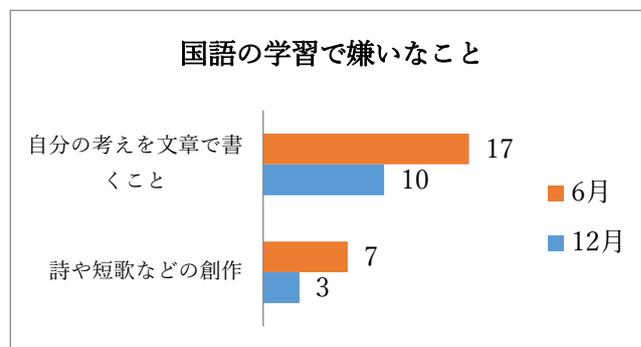
2回の実践を通して、子どもたちの「書くこと」に対する意欲が高まってきたことが以下のアンケート結果から分かる。



【図4 1・2学期定期考査「書くこと」に関する評価より】



【図5 アンケート結果1】



【図6 アンケート結果2】

(2) 研究の成果（○）と課題（●）

- 思考ツールを活用することで、自分の考えが整理されたり可視化されたりし、文章で表現することに対する苦手意識が低くなった。
- 文章化するとき、構成の仕方を示すことで、何をどのように書いたら良いのか分かるようになった。
- 自分の考えを文章化するとき、思考ツールに表出した考えをどのように選択し、構成させるか更なる手だてを考える必要がある。

(参考文献) ・学習指導要領解説「国語編」文部科学省

・こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール 教育技術MOOK